



# 甲虫ニュース COLEOPTERISTS' NEWS

No. 163



September 2008

## 奄美大島で採集した流水域に生息する甲虫類 II

林 成多・藤原 淳一

Records on aquatic Coleoptera from streams and rivers in Amami-Oshima,  
Kagoshima Prefecture, Japan (Part 2)

Masakazu HAYASHI and Jun'ichi FUJIWARA

奄美大島には多くの河川があり、アマミハバビロドロムシやアマミマルヒラタドロムシなどの固有種を含めて多様な流水性甲虫が生息している。筆者の一人、林は2007年4月27日～5月1日に奄美大島の河川で採集した水生甲虫類について報告したが（林, 2007）、2008年6月27日～7月2日に共著者の藤原とともに再度同島で水生甲虫類の調査を行った。2007年とは調査時期が異なり、ヒメドロムシ科は春期よりも多くの種・個体を採集することができた。残念ながら今回の調査では、新記録種や未記載種を確認することはできなかった。しかし、汽水域に生息するクロシオガムシの新産地を確認することができ、また近年記載されたアマミハバビロドロムシについても生息の知見が得られたので、ここに報告する。

本文に入るに先立ち、調査地点について有益な助言をいただいた吉富博之博士・上手雄貴氏、クロシオガムシの生息環境についてご教示いただいた中島 淳博士に厚くお礼申し上げる。

### 調査地点

今回の調査地点は以下のとおりで、採集データでは地名を略記した。地名のない場所もあるので、地図のメッシュコード(mc)を加えた。また、採集者はすべて筆者ら（林: H; 藤原: F）である。

鍋比林道: 奄美市（旧笠利町）鍋比林道沿いの沢 (mc 4229-5554).

金作原: 奄美市（旧名瀬市）金作原 (mc 4229-4305).

知名瀬川上流: 奄美市（旧名瀬市）知名瀬川上流 知名瀬林道 (mc 4229-4315).

知名瀬川下流: 奄美市（旧名瀬市）知名瀬川下流 知名瀬林道 (mc 4229-4335).

川内川 1: 奄美市（旧住用村）川内集落付近 川内川 (mc 4229-3354).

川内川 2: 奄美市（旧住用村）川内集落の上流側 川内川 (mc 4229-3364).

新村: 奄美市（旧住用村）新村役勝川 支流の滝 (mc 4229-2268).

戸口川河口: 龍郷町中戸口 戸口川河口 (mc 4229-4436).

加世間又: 龍郷町加世間又 大美川と道路上の水たまり (mc 4229-4477).

中勝: 龍郷町中勝 (mc 4229-4456)

名音川上流: 大和村名音川の上流 (mc 4229-3266).

河内川: 宇検村河内川 奄美中央林道 (mc 4229-3217).

湯湾: 宇検村湯湾林道沿い崖の浸みだし (mc 4229-3224).

アランガチの滝: 宇検村小勝川アランガチの滝 (mc 4229-3226).

### 採集の記録

各種の記録について分類群ごとに記述する。“L”は幼虫の個体数，“LT”は街灯で採集したことを示す。標本は、それぞれの著者が保管している（林が採集した標本はホシザキ野生生物研究所に収蔵されている）。



図 1 戸口川の河口全景  
 図 2 クロシオガムシが生息している砂礫質の干潟  
 図 3 アマミハバビロドロムシ生息環境 (大美川)  
 図 4 アマミハバビロドロムシ生息環境 (川内川 1)

#### ゲンゴロウ科 Dytiscidae

フタキボシケンゲンゴロウ *Allopachria bimaculatus* (M. SATO)

流水に生息するが、得られた個体数は少なかった。

2 exs., 川内川 1, 29. VI. 2008, H & F.

3 exs., 名音川上流, 30. VI. 2008, H & F.

#### ガムシ科 Hydrophilidae

クロシオガムシ *Horelophopsis hanseni* M. SATO et YOSHITOMI

戸口川の河口 (図 1, 2) において、水没した礫や砂質干潟を攪拌することにより浮いてきた個体を採集した。個体数は多い。生息場所は、満潮時には完全に水没し、海水の影響を強く受けている。奄美大島は Ishihara (旧住用村 石原) がパラタイプの産地となっている (SATO and YOSHITOMI, 2004)。

21 exs., 戸口川河口, 28. VI. 2008, H & F.

6 exs., 戸口川河口, 1. VII. 2008, H.

アマミマルガムシ *Hydrocassis jengi* M. SATO

流水中の落ち葉や枝がたまっている場所に生息している。幼虫は 2 齢とみられる個体が 1 頭のみ採集されただけであり、幼虫の多い時期ではないとみられる。

10 exs., 加世間又 (大美川), 28. VI. 2008, H & F.

1 ex., 知名瀬川上流, 29. VI. 2008, H.

3 exs., 河内川 1, 30. VI. 2008, H.

10 exs.+1L, 名音川上流, 30. VI. 2008, H & F.

アマミシジミガムシ *Laccobius satoi* GENTILI

川辺の砂礫中に多くみられるほか、水の滴る垂直な岩盤の表面にも生息している。

7 exs., 加世間又 (水たまり), 28. VI. 2008, H & F.

15 exs., 知名瀬川下流, 29. VI. 2008, H.

5 exs., 川内川 1, 29. VI. 2008, H & F.

11 exs., 湯湾 (林道沿い), 30. VI. 2008, H & F.

リュウキュウツヤヒラタガムシ *Agraphydrus ryukyuensis* (MATSUI)

アマミシジミガムシとともに川辺の砂礫中に多くみられる。島根県に生息しているツヤヒラタガムシ *A. narusei* と生息環境がよく似ている。

6 exs., 知名瀬川下流, 29. VI. 2008, H.

1 ex., 戸口川河口, 1. VII. 2008, H.

## ダルマガムシ科 Hydraenidae

ヴィクトリアダルマガムシ *Hydraena victoriae* JÄCH et DIAZ

4 exs., 加世間又 (大美川), 28. VI. 2008, H.

1 ex., 川内川 1, 29. VI. 2008, H.

1 ex., 新村 (役勝川支流の滝), 30. VI. 2008, H.

アマミシジミダルマガムシ *Limnebius nakanei nakanei* JÄCH et MATSUI

アマミシジミガムシとともに川辺の砂礫中に多くみられる。

8 exs., 知名瀬川下流, 29. VI. 2008, H.

## ナガハナノミ科 Ptilodactylidae

ヒメヒゲナガハナノミ属の一種 *Drupeus* sp.

滝の岩盤表面から2頭を採集した。林 (2007) で報告した幼虫と同じ種の幼虫である。

2 L, 知名瀬川上流, 29. VI. 2008, H.

## ダエンマルトゲムシ科 Chelonariidae

ダエンマルトゲムシ *Pseudochelonarium yakushimanum* (NAKANE)

川辺に流れ着いた植物片の中から得られた。

1 ex., 川内川 1, 29. VI. 2008, H.

## ヒラタドロムシ科 Psephenidae

オオシママルヒラタドロムシ *Eubrianax amamiensis amamiensis* M. SATO

主に上流部で成虫・幼虫共に得られた。

3 exs. + 14L, 知名瀬川上流, 29. VI. 2008, H.

1 L, 川内川 1, 29. VI. 2008, H.

アマミマルヒラタドロムシ *Eubrianax nobuoi* M. SATO

4月末には成虫がみられたが、今回は若齢の幼虫のみが確認された。

7 L, 川内川 2, 29. VI. 2008, H.

マルヒゲナガハナノミ *Macroeubria lewisi* NAKANE

ノムラヒメドロムシと共に森林中の細流から採集した。

1 L, 金作原, 29. VI. 2008, F.

## ドロムシ科 Driopidae

リュウキュウムナビロツヤドロムシ *Elmomorphus brevicornis amamiensis* NOMURA

河床だけでなく、ツルヨシなどの根際や流木からも多く採集された。本土に生息する基亜種と生態的な違いみられない。

9 exs., 鍋比林道, 28. VI. 2008, H & F.

35 exs., 加世間又 (大美川), 28. VI. 2008, H & F.

7 exs., 川内川 1, 29. VI. 2008, H & F.

1 ex., 川内川 2, 29. VI. 2008, F.  
 1 ex., 河内川, 30. VI. 2008, H.  
 1 ex., アランガチの滝, 30. VI. 2008, H.  
 40 exs., 名音川上流, 30. VI. 2008, H.

## ヒメドロムシ科 Elmidae

アマミハバビドロムシ *Dryopomorphus amami* YOSHITOMI et M. SATO  
 3 exs., 加世間又(大美川), 28. VI. 2008, F.  
 1 L, 川内川 1, 29. VI. 2008, H.  
 3 L, 川内川 2, 29. VI. 2008, H.  
 4 exs.+19 L, 名音川上流, 30. VI. 2008, H.  
 1 L, アランガチの滝, 30. VI. 2008, H.

アカハラアシナガミゾドロムシ *Stenelmis hisamatsui* M. SATO  
 19 exs., 加世間又(大美川), 28. VI. 2008, F.  
 9 exs., 知名瀬川下流, 29. VI. 2008, H.  
 15 exs., 川内川 1, 29. VI. 2008, H & F.  
 1 ex., 河内川, 30. VI. 2008, F.  
 1 ex., アランガチの滝, 30. VI. 2008, F.  
 13 exs., 龍郷町中勝(灯火), 1. VII. 2008, H & F.

リュウキュウアシナガミゾドロムシ *Stenelmis hayashii* M. SATO  
 1 ex., 河内川, 30. VI. 2008, F.  
 1 ex., アランガチの滝, 30. VI. 2008, F.

アマミミゾドロムシ *Ordobrevia amamiensis amamiensis* (NOMURA)  
 各河川でみられたが、特にやや泥質な河床の河川で多く採集された。  
 116 exs., 鍋比林道, 28. VI. 2008, H & F.  
 3 exs., 加世間又(水たまり), 28. VI. 2008, H.  
 35 exs., 加世間又(大美川), 28. VI. 2008, H & F.  
 3 exs., 川内川 1, 29. VI. 2008, H.  
 4 exs., 川内川 2, 29. VI. 2008, F.  
 11 exs., 知名瀬川下流, 29. VI. 2008, H.  
 11 exs., 河内川, 30. VI. 2008, H & F.  
 1 ex., 龍郷町中勝(灯火), 1. VII. 2008, H.

ノムラヒメドロムシ *Nomuraelmis amamiensis* M. SATO  
 15 exs., 金作原, 29. VI. 2008, H & F.  
 1 ex., 川内川 1, 29. VI. 2008, H.

マルナガアシドロムシ *Grouvellinus subopacus* NOMURA  
 1 ex., 知名瀬川上流, 29. VI. 2008, F.

ナガツヤドロムシ *Zaitzevia elongata* NOMURA

川の瀬に生息していることが多く、西日本のアワツヤドロムシに生息環境が似ている。  
 2 exs., 加世間又(大美川), 28. VI. 2008, F.  
 6 exs., 知名瀬川下流, 29. VI. 2008, H.  
 3 exs., 川内川 1, 29. VI. 2008, H.  
 1 ex., 川内川 2, 29. VI. 2008, F.  
 2 exs., 河内川, 30. VI. 2008, H & F.  
 3 exs., アランガチの滝, 30. VI. 2008, H.

ウエノツヤドロムシ *Urumaelmis uenoi* (NOMURA)  
 2 exs., 金作原, 29. VI. 2008, H.

1 ex., 名音川上流, 30. VI. 2008, F.

#### アマミハバビロドロムシの生息環境

アマミハバビロドロムシ *Dryopomorphus amami* は, YOSHITOMI and SATO (2005) によって新種記載されたヒメドロムシである. 奄美大島産のタイプシリーズは自然林の細流において, 流木や落ち葉から採集されている. このような生息環境は本州のハバビロドロムシ *D. extraneus* と同じである. しかし, 今回の調査では, 相対的に下流の複数地点で, ツルヨシなどの草本植物の根際から複数の幼虫が採集された (図 3, 4). このことは, アマミハバビロドロムシが上流 (源流) の細流から下流にまで広く生息可能であることを示している. 近年, 山陰の河川でも森林のない開けた場所を流れる河川の下流において, ヒメハバビロドロムシ *D. nakanei* がツルヨシの根際で生息していることが確認されている (林・門脇, 2008). このような環境はヒメドロムシ科のセマルヒメドロムシ *Orientalmis parvula* やドロムシ科のムナビロツヤドロムシ *Elmomorphus brevicornis* が好む環境でもあるが, ハバビロドロムシ属についても重要な生息環境であるとみられる.

#### その他の水生甲虫について

ダルマガムシ科のアマミセスジダルマガムシ *Ochthebius amami* は今回採集することができなかった. 6月には成虫の出現時期ではないとみられるが, どのように夏期を過ごしているのか興味深い. ヒラタドロムシ科では, 大桃ほか (2008) がマルヒゲナガハナノミ *Schinostethus brevis* を奄美から初めて記録しているが, 今回は採集できなかった. 筆者らは, 幼虫が生息する湿った岩盤をかなり見て回ったが, みつかるのはアマミシジミガムシのみであった. 奄美大島では相当少ない種なのではないかと思われる. また, 固有種のアミメチビヒゲナガハナノミ *Dicranopselaphus reticulatus* についても成虫・幼虫共に発見できなかった. 日本産ヒラタドロムシ科の中で最も得難い種であることは間違いなさそうである.

#### 引用文献

- 林 成多 (2007) 奄美大島で採集した流水域に生息する甲虫類. 甲虫ニュース, (158): 9-12.  
 林 成多・門脇久志 (2008) 鳥取県大山山麓の河川に生息する水生甲虫類 II. ホシザキグリーン財団研究報告, (11): 269-286.  
 大桃定弘・高橋啓一・高井幹夫 (2008) 2007年に奄美大島で採集した甲虫類. インセクト, 58(2): 141-150.  
 SATO, M. and H. YOSHITOMI (2004) Discovery of a second representative of the genus *Horelophopsis* (Coleoptera, Hydrophilidae) from the Ryukyu Archipelago, Japan. *Elytra*, 32(1): 41-49.  
 YOSHITOMI, H. and M. SATO (2005) A revision of the Japanese species of the genus *Dryopomorphus* (Coleoptera, Elmidae). *Elytra*, Tokyo, 33(2): 455-473.

(林: (財) ホシザキグリーン財団)

(藤原: 島根大学生物資源科学部生態環境科学科)

#### ○屋久島産ゾウムシ 2種の記録

手元に屋久島未記録のゾウムシ 2種があるので



写真 屋久島産サタアナアキゾウムシ

新分布記録として報告する.

1. ハコベタコゾウムシ *Hypera basalis* (Voss)  
 1 ex., 鹿児島県熊毛群屋久町栗生, 12. V. 2003, 向山敬延採集.
2. サタアナアキゾウムシ *Seleuca satana* MORIMOTO  
 1 ex., 鹿児島県熊毛群屋久町麦生, 20-27. VII. 1981, 田中 稔採集.  
 1 ex., 鹿児島県熊毛群屋久町栗生, 12. V. 2003, 向山敬延採集.  
 報告にあたりいろいろお世話になった向山敬延, 的場 績氏に改めてお礼を申し上げる.

#### 引用文献

- 森本 桂, 1984. ゾウムシ科. 原色日本甲虫図鑑 (IV) pp. 284-285, 330. 保育社, 大阪.  
 田中 稔, 2007. 屋久島産ゾウムシ 3種の記録. 甲虫ニュース, (158): 17.  
 田中 稔, 2008. 屋久島産ヒゲナガゾウムシ 3種の記録. 甲虫ニュース, (161): 8.

(兵庫県西宮市, 田中 稔)

## センジョウミヤマヒサゴメツキ甲斐駒ヶ岳に分布

大平 仁 夫

A new locality of *Homotechnes motschulskyi kuratai* (Coleoptera: Elateridae)  
from Mt. Kai-komagatake in S. Alps, Honshu, Japan

Hitoo ÔHIRA

南アルプスの北部に位置する仙丈ヶ岳 (標高 3,033 m) とその周辺に存在する北岳 (標高 3,192 m), 鳳凰山 (標高 2,840 m), 塩見岳 (標高 3,047 m) などの山頂部とその周辺に, KISHII (1968, 1989, 1993) が新亜種として分布と記載をした *Homotechnes motschulskyi kuratai* (KISHII, 1968) センジョウミヤマヒサゴメツキが知られていて, この亜種の完模式標本の産地は塩見岳である。また, 岸井 (2006) は北岳と甲斐駒ヶ岳の間にある北沢峠 (標高 2,032 m) 付近で見出された 1 雌個体は「やや大形で少々異質な特徴が見られる」としながらもこの亜種として記録している。このたび, 岡崎市に在住の登山家の山本英治氏が, 2008 年 7 月に甲斐駒ヶ岳の山頂部の山道を歩行中の 1 個体を見出して筆者のもとに届けられた。それは図示 (Fig. 1) したような雄個体で, この山からは未記録であったのでここに記録することにした。

体長は 9 mm, 体は短大で“ひさご型”を呈し, 黒色で光沢を有する。小顎枝節は暗褐色, 触角は暗褐色 (基部 2~3 節は褐色) で肢は黄褐色 (腿節は暗褐色) を呈する個体であった。

筆者の手元には鳳凰山産の若干の個体と仙丈ヶ岳産の 1 雄個体がある。鳳凰山産の一般形態は甲斐駒ヶ岳産によく類似しているが, 仙丈ヶ岳産は体長が 8.5 mm で両側はより平行状を呈し, 背面の膨隆はより浅い。地質的には甲斐駒ヶ岳と鳳凰山は花崗岩帯で仙丈ヶ岳は古生層帯であるなど, これら両者の山塊の成立過程に大きな違いが見られる。これと成虫の形態上の変異の関連や本亜種の分布範囲も含めて, より多くの個体を調査したいと考えているので, ここでは甲斐駒ヶ岳に分布の記録にとどめたい。末尾に甲斐駒ヶ岳産の個体を提供いただいた山本英治氏に心から感謝の意を表する。

調査標本: 1♂, 甲斐駒ヶ岳 (山頂部), 26-VII-2008, 山本英治 (図示した個体)。



Fig. 1. *H. motschulskyi kuratai* センジョウミヤマヒサゴメツキ, ♂, 甲斐駒ヶ岳産, 体長 9 mm.

## 引用文献

- KISHII, T. 1968. Some new forms of Elateridae in Japan (V). *Bulletin of the Heian High School, Kyoto*, (13): 1-15.  
 ———, 1989. Elaterid-beetles from Mt. Houwau-zan and Gozaishi-kosen spa in Yamanashi prefecture, collected by Mr. Koichi Hosoda in 1987 and 1988 (Coleoptera: Elateridae). *Ibid.*, (33): 1-19.  
 ———, 1993. Notes on Elateridae from Japan and its adjacent area(12)(Coleoptera). *Ibid.*, (37): 1-19.

岸井 尚, 2006. 細川浩司氏蒐集の邦産コメツキムシ. 地域甲虫自然史, (2): 1-89. (日本甲虫学会)

(〒444-3511 岡崎市舞木町狐山 6-4)

## トホシニセマルトビハムシの寄主植物について

石川 均

トホシニセマルトビハムシ *Schenklingia kasuga* NAKANE, 1963 の寄主植物としては、ヒメノキシノブ *Lepisorus onoei* (FRANCH. et SAVAT.) CHING, ノキシノブ *Lepisorus thunbergianus* (KAULF.) CHING, マメツタ *Lemmaphyllum microphyllum* PRESL, ビロウドシダ *Pyrrosia linearifolia* (HOOK.) CHING が報告されている(鈴木ら, 2008; 鈴木・南, 2008). ところで静岡県内ではノキシノブが主な寄主とされているほかヒメノキシノブも寄主として1例報告されているが, マメツタは寄主として確認されていない(鈴木・多比良, 2008). マメツタは九州中北部では本種の寄主として確認されているが, 本州からの確認はまだないようである. 筆者は静岡県内の数ヶ所で調査したところ, マメツタから本種を確認し, また同一場所でマメツタ, ヒメノキシノブ, ノキシノブの3種から本種を確認した. このうち, マメツタ, ヒメノキシノブでの確認例は一本のケヤキに着生していたものから採集されたものであり, それぞれのシダに食痕が確認された. さらに, 静岡県内でノキシノブから採集記録のある静岡市葵区諸子沢で調査したところ, マメツタから採集することができた. これらのことから, 静岡県においてはトホシニセマルトビハムシがノキシノブを主要な寄主として選択しているということはないと思われる.

なお, マメツタがごくまばらに着生していても本種が生息している場所があるのに対し, マメツタが密に着生していても食痕の確認できない場所もあり, また樹幹に着生したマメツタから確認されている場所付近でも岩に着生したマメツタからは未確認である. 樹幹に比べると岩上は温度変化が大きいと考えられることや, マメツタで食痕が確認されたのはすべて葉が肉厚で薄い紙質の葉のマメツタからは確認されていないことなどから, 寄主植物となるウラボシ科シダ類の生育状況やその生育地の気温, 湿度といった微環境条件の違いが本種の寄主選択に関係している可能性があると考えられる.

10 exs., 静岡県賀茂郡河津町沼ノ川, 9. IV. 2008 (タブノキ, ケヤキ等に着生したマメツタより採集).

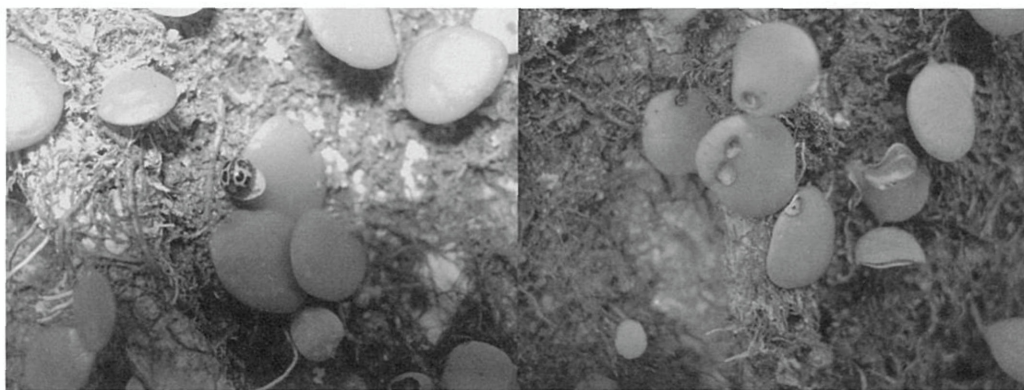
5 exs., 静岡県静岡市清水区黒川, 12. IV. 2008 (3 exs. はヒメノキシノブ, 1 ex. はマメツタより採集し, これらのシダは同じケヤキに着生していた. 1 ex. はコナラに着生したノキシノブより採集).

1 ex., 静岡県静岡市葵区横山, 19. IV. 2008 (ソメイヨシノに着生したノキシノブより採集).

3 exs., 静岡県静岡市葵区舟沢, 19. IV. 2008 (1 ex. はエノキに着生したノキシノブより採集, 2 exs. は別のエノキに着生したヒメノキシノブより採集).

2 exs., 静岡県静岡市葵区諸子沢, 29. IV. 2008 (アラカシに着生したマメツタより採集).

1 ex., 静岡県静岡市葵区八幡, 29. IV. 2008 (アラカシに着生したマメツタより採集).



マメツタで確認されたトホシニセマルトビハムシとその食痕(河津町沼ノ川)

末筆ながらトホシニセマルトビハムシの同定をいただいた滝沢春雄博士および発表を進めていただいた南 雅之氏に厚くお礼申し上げます.

## 引用文献

鈴木邦雄・南 雅之・今坂正一・多比良嘉晃・木附嘉理・磯輪亮太, 2008. 日本産ニセマルトビハムシ属(ハムシ科, トビハ

ムシ亜科)の地理的分布と寄主植物. 甲虫ニュース (161): 22-29.

鈴木邦雄・南 雅之, 2008. シダ類を寄主とするハムシ類 (概説). 甲虫ニュース (161): 29-33.

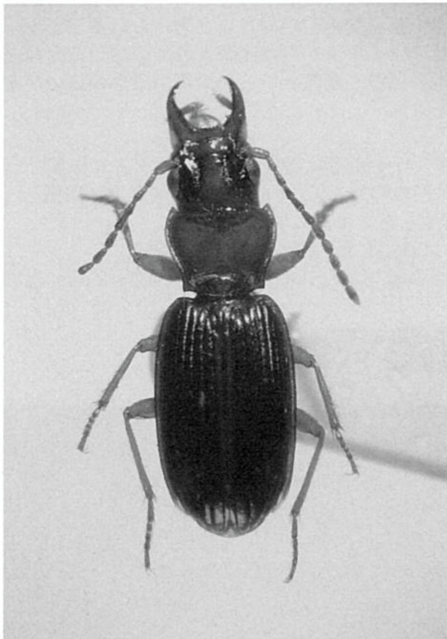
鈴木邦雄・多比良嘉晃, 2008. トホシニセマルトビハムシの静岡県下における若齢期の観察. 月刊むし (448): 45-46.

(〒420-0911 静岡市葵区瀬名 3-1-7)

### ○ツツイキバナガゴミムシ長崎県の記録

筆者の一人深川は、長崎県ではこれまで採集記録のなかったツツイキバナガゴミムシ *Armatocillus tsutsuii* UENO, 1955 を県内数カ所で採集し、その後、松尾も本種の分布を再確認することができたのでここに記録しておく。

本種の基準産地はトカラ列島中之島であるが、その後屋久島、愛知県などにも数カ所産地が点在していることが確認されている。いずれの場所においてもその生息状況は海岸または河口の潮干帯の石下に限られるようで、本県での採集環境も同様な場所であった。



1 ex., 長崎県西海市西彼町穀光浦, 7-VIII-2004, 深川採集; 5 exs., 長崎県東彼杵郡川棚町大崎半島西岸, 25-VI-2005, 深川採集; 2 exs., 長崎県東彼杵郡川棚町大崎半島東岸, 27-V-2006, 深川採集; 8 exs., 長崎県北松浦郡鹿町町鹿町海水浴場, 29-IV-2008, 深川・小原良典採集; 3 exs., 同海水浴場, 7-VI-2008, 松尾採集

なお、本種の採集地である西彼町穀光浦や川棚町大崎半島では類似した環境を好む魚類のイドミミズハゼなども生息していることから、今後イドミミズハゼの記録がある県内の平戸島などにも分布の可能性があると考えられる。

末筆ながら、採集調査に同行していただいた小原良典氏、本種についてのご教示をいただいた今坂正一氏にお礼申し上げる。

### 参考文献

森田誠司, 1993. 海棲のオサムシ科甲虫について. 昆虫と自然, 28(11): 17-22.

森田誠司・白井勝巳・蟹江 昇・長谷川道明, 1996. 愛知県におけるキバナガミズギワゴミムシ類の採集記録. 豊橋自然史博研報, 6: 27-30.

中根猛彦, 1978. 日本の甲虫 (49). 昆虫と自然, 13(5): 11-14.

(長崎県佐世保市, 松尾照男)

(長崎県長崎市, 深川元太郎)

### ○ナガヒメジョウカイの四国からの追加記録

ナガヒメジョウカイ *Micropodabrus longipes* (WITTMER, 1953) は奈良県吉野山を基準産地として記載された種である。中根 (1992) や今坂 (1992) などによる追加記録が報告されたことにより、本種は太平洋岸に沿った地域に分布することが知られている。近年では佐藤・山本 (2000), 吉田・黒田 (2001) や中山 (2004) により四国の内陸部からも記録されている。筆者は下記のような四国产の本種標本を検査しているので記録しておきたい。

1♂, 香川県琴南町大川山, 3. V. 2002, 藤本博文採集; 1♀, 高知県香美市轟の滝, 20. V. 2008, 筆者採集; 1♂, 高知県の町, 21. V. 2008, 筆者採集; 1♂, 高知県の町名野川, 22. V. 2008, 筆者採集。

これまでの記録より、本種は四国全域に広く分布しているものと考えられる。末筆ながら、貴重な標本をご恵与いただいた藤本博文氏に厚くお礼申し上げます。

### 引用文献

今坂正一, 1992. ホソナガジョウカイについて. 甲虫ニュース, (100): 27-30.

中根猛彦, 1992. 日本の雑甲虫覚え書 9. 北九州の昆蟲, 39: 73-79, pl.8.

中山紘一, 2004. 四国のジョウカイボン科覚え書き. げんせい, (79): 18-20.

佐藤正孝・山本栄治, 2000. 小田深山およびその周辺のホタルモドキ科とジョウカイボン科. 小田深山の自然 II: 451-454.

吉田正隆・黒田祐次, 2001. 神山町の昆虫. 徳島昆虫, (12): 31-83.

(九州大学, 高橋直樹)

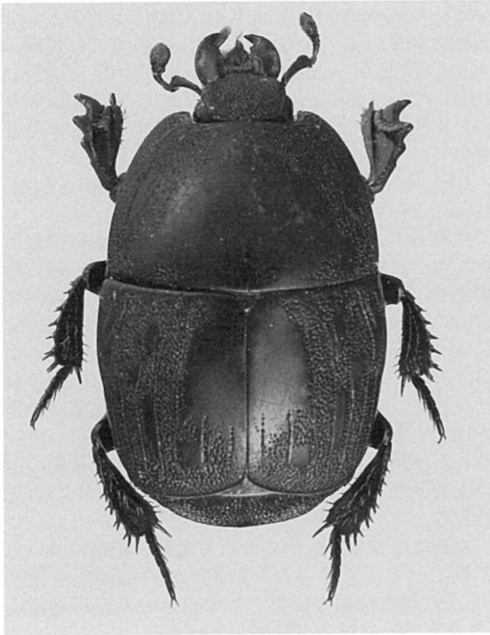


## ○アラメンマムシを福岡県本土で採集

国内記録の十指に満たないアラメンマムシ *Zabromorphus salebrosus subsolanus* NEWTON in JOHNSON *et al.* を福岡県本土で採集したので報告する。福岡県ではすでに博多沖の能古島で記録があり(鶴ら, 2002 (Vitae, 43: 77-87)), 本報告は福岡県では2例目、県本土では初の記録となる。

1頭, 福岡市西区小戸5丁目(九州大学職員宿舎), 2008年8月30日, 筆者採集保管。

採集地は筆者の住む宿舎の花壇跡で、現在は住民が自由に耕して家庭菜園として利用している場所である。宿舎は生の松原という九州大学の海岸演習林の一角を拓いた場所に建てられており、周囲を照葉樹林(やや陸側)とマツ林(海側)で囲まれている。家庭菜園とはいえ、住宅が近接しているため、農薬を使う住民はいないようである。そのためか、すぐそばを国道が走っているものの、虫の数は大変多い。



エンマムシは曇りの昼過ぎに筆者の畑の中を右へ左へと走っていた。5分ほど観察していたが、何かを捕食する行動は見られなかった。一見あてもなく走る様子は日向を走る歩行虫のそれによく似ており、点刻と平滑部の交る本種の背面の独特な模様はハンショウモドキや一部のミズギワゴミムシ等、露出した地面を歩く虫に通じるものがあるが、本種の行動も本来そのようなものなのかもしれない。本種は生態についてほとんど未知であり、今後さらなる観察が望まれる。なお、初記録地の能古島はちょうど宿舎の対岸にあり、本記録地の周辺には広く生息

している可能性が高い。

能古島での記録についてご教示くださった藤本博文氏(丸亀市)と中島淳氏(九州大学)にはお礼申し上げます。

(九州大学総合研究博物館, 丸山宗利)

## ○キイロアシボソテントウダマシの記録

筆者は兵庫県において、*Chondria lutea* GORHAM キイロアシボソテントウダマシを得たので報告する。

1ex., 兵庫県宝塚市切畑武庫川溪谷「桜の園」, 15-26. VI. 2007, 筆者採集・保管。

1ex., 兵庫県宝塚市玉瀬字イヅリハ, 22. V-16. VI. 2008, 筆者採集・保管。

2007年に得た個体はFIT (Flight Interception Trap) より得られた。また、2008年に得た個体はマレーゼトラップより得られた。FITの作成法は基本的に丸山(2003)に従った。マレーゼトラップはカナダ Sante Trap 社製のタウンズタイプのマレーゼトラップを兵庫県立人と自然の博物館から借用した。同定は生川展行氏に依頼した。



本種は、神奈川県、三重県、京都府、長崎県(生川, 2001)、岡山県(鈴木, 2006)より記録があるが、どの県においても1, 2個体が得られているだけである。

末筆ながら、発表を勧められ分布記録をご教示していただき、本種の同定も快諾していただいた生川展行氏と、本種の撮影をしていただいた兵庫県立人と自然の博物館の八木剛氏に、深く感謝申し上げます。

## 引用文献

- 丸山宗利, 2003. 好蠟性・好白蠟性甲虫の採集法. 昆虫と自然, 38(9): 43-47.  
 生川展行, 2001. 興味深いテントウムシダマシの記録. 北九州の昆虫, 48(1): 1-3.  
 鈴木茂, 2006. 岡山県で採集したテントウムシダマシ科甲虫. すずむし, (141): 15-17.

(兵庫県三田市, 吉田貴大)

## ○ササジクチブトゲムネサルゾウムシの追加記録

ササジクチブトゲムネサルゾウムシ *Xenysmoderodes sasajii* YOSHITAKE は, YOSHITAKE & ITO (2007) により宮城県, 御蔵島, 石川県, 京都府, 鳥取県(模式産地: Mt. Daisen) から得られた標本に基づいてトゲムネサルゾウムシ族 *Mecysmoderini* の新属新種として記載された種である. その後, 本種は青野(2008)によって岡山県からも記録されている. 最近, 筆者らは, 岡山市の藤谷美文氏と大館市の尾崎俊寛氏のご厚意や野外調査を通じて, 本種の標本を検査する機会に恵まれた. 採集例の少ない種であるため, 追加記録としてここに報告する.



1♀, 青森県鮎ヶ沢町くろくまの滝, 30. VII. 1995, 市田忠夫採集, 吉武保管; 1♂, 群馬県利根郡みなかみ町谷川岳, 7. VI. 2008, 瀬島翔馬採集, 保管(写真); 1♀, 鳥取県日野郡江府町御机, 13. V. 2007, 藤谷美文採集, 瀬島保管.

群馬県産の標本は, ブナ・ミズナラ帯の中を流れる河岸に群生していたヤナギ類を掬って採集されたものであり, 鳥取県産の標本は, 大山に程近いブ

ナ・ミズナラ帯で, リターを篩って採集されたものであることを付記しておく.

末筆ながら, 貴重な標本を恵んでくださった藤谷・尾崎両氏に厚くお礼申し上げる.

## 引用文献

- 青野孝昭, 2008. ササジクチブトゲムネサルゾウムシ岡山県にも生息. 月刊むし, (449): 45.  
 YOSHITAKE, H. & M. ITO, 2007. A new genus and species of the tribe *Mecysmoderini* from Japan, with comments on the subgenus *Coelioideres* (Coleoptera: Curculionidae: Ceutorhynchinae). *Ent. Rev. Japan*, 62: 75-86.

(愛媛大学, 瀬島翔馬)

(農業環境技術研究所, 吉武 啓)

## ○福岡県におけるアイヌコブスジコガネの記録

アイヌコブスジコガネ *Trox (Trox) setifer setifer* WATERHOUSE, 1875 は, 北海道, 本州, 九州の広範囲にかけて分布し, 対馬に産する個体群は亜種 *T. setifer horiguchii* OCHI et KAWAHARA, 2002 として記載されている. 九州地方では, これまでに長崎, 大分の各県から記録されている(今坂・越智, 1980; 羽田, 2006). 筆者は, これまでに記録のなかった福岡県で採集された個体を検査することができたので, ここに報告しておきたい.

1 ex., Mt. Hiko-san (640 m alt.), Fukuoka Pref., Japan, 27. V. 2008, T. MITA leg.

採集者の三田敏治氏によれば, 夜間灯火に飛来したとのことである. 本種は夏季に鳥獣の古い死体に集まり, 幼虫は鳥獣の毛や羽毛, 軟骨などを食べて育つことが知られている(川井ほか, 2005). また, じゅうらい森林にのみ生息すると考えられていたが, 近年オープンランドの草原地帯からも記録された(羽田, 2006). 今回記録した英彦山は草原地帯ではないものの, 九州北部全域にわたり分布していることが明らかとなった. おそらく, まだ記録のない佐賀県などでも発見される可能性は高いものと思われる.

末筆になるが, 九州における本種の記録についてご教示して下さった今坂正一氏(福岡県久留米市), 貴重な情報を提供して下さった三田敏治氏(九州大学)に厚くお礼申し上げる.

## 参考文献

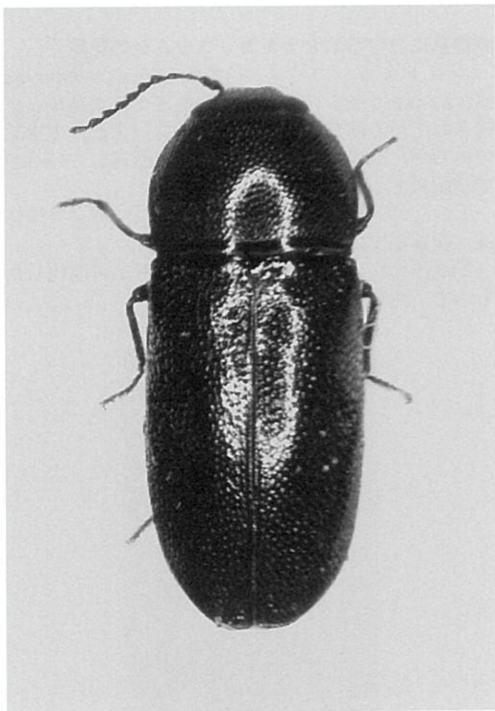
- 羽田孝吉, 2006. 大分県内におけるコブスジコガネ属 *Trox* の記録. 二豊のむし, (44): 40-41.  
 今坂正一・越智輝男, 1980. 島原半島の甲虫相 I コガネムシ主科(3). 北九州の昆虫, 26(3): 111-121.  
 川井信矢・堀 繁久・河原正和・稲垣政志編著, 2005. 日本産コガネムシ上科図説 第1巻, 189 pp. 昆虫文献六本脚, 東京.

(九州大学農学部, 山本周平)

○ケシツブタマムシの四国からの記録

ケシツブタマムシ *Mastogenius insperatus* Y. KUROSAWA は、本州から琉球列島にかけて広く分布しているが、大変小型で一般的に個体数も少ないためか、今までに四国からの記録はなかったと思われる。筆者の一人である瀬島は、愛媛県宇和島市高串において、本種を採集・保管しているのでここに報告する。

1 ex., Takagushi, Uwajima City, Ehime, Japan, 14. V. 2007, S. SEJIMA leg.



採集地は海岸からほど近い、アラカシ、ヤブニツケイ、タブノキなどの常緑広葉樹を主体とする林で、採集個体は、林縁部のそれらの生葉をスウィープしたところ得られた。

引用文献

- 入江平吉, 1977. ケシツブタマムシ石垣島の記録. 甲虫ニュース, (38): 8.  
 中根猛彦, 1983. ケシツブタマムシは本州にもいる. 昆虫と自然, 18(14): 6.  
 大桃定洋, 2006. 最近のタマムシ研究. 月刊むし, (420): 2-11.

(愛媛大学農学部, 瀬島翔馬・栗原 隆)

○伊豆諸島三宅島におけるチビシデムシ類 3 種の記録

これまで伊豆諸島からのチビシデムシ類(タマキノコムシ科)の記録は、澤田・渡辺(1969)による御蔵島からのクリバネチビシデムシ *Micronemadus pusillimus*, ヒレルチビシデムシ *Catops hilleri* の 2 種のチビシデムシ亜科のみであり、ヒゲブトチビシデムシ亜科の記録はなかった。筆者らのうち、浅野は 2006 年 5~10 月、安岡は 2007 年 3~10 月にかけて三宅島で衝突板トラップ(FIT)および鶏肉を誘引物質としたベイトトラップ(BT)を用いた調査を行った。そのサンプルの分析過程で、伊豆諸島から初記録となるオオヒゲブトチビシデムシ *Colon hiraii* および三宅島から初記録となるクリバネチビシデムシ、ヒレルチビシデムシの 3 種のチビシデムシ類を確認したので報告する。標本の同定をいただいた海老名市の西川正明氏ならびに福井大学の保科英人氏に厚く御礼申し上げる。



1. オオヒゲブトチビシデムシ *Colon hiraii* NAKANE (写真)

3 exs., 伊豆. 23-27. V. 2007. 安岡採集 (FIT); 1 ex., 坪田林道. 23-27. V. 2007. 安岡採集 (FIT); 3 exs., 伊豆. 18-22. IX. 2007. 安岡採集 (FIT); 1 ex., 坪田林道. 20-24. X. 2007. 安岡採集 (FIT).

ヒゲブトチビシデムシ亜科は、伊豆諸島から初記録。

2. クリバネチビシデムシ *Micronemadus pusillimus* (KRAATZ)

8 exs., 伊豆, 26-29. VII. 2006. 浅野採集 (FIT).

3. ヒレルチビシデムシ *Catops hilleri* KRAATZ

4 exs., 坪田坪田林道. 26-30. III. 2007. 安岡採集 (FIT); 4 exs., 神着. 27-28. IV. 2007. 安岡採集 (BT). 本種とクリバネチビシデムシは、御蔵島からも得られている(澤田・渡辺, 1969).

引用文献

澤田玄正・渡辺泰明, 1969. 御蔵島の昆虫相. 農学集報, 14(1), 1-48.

(東京農業大学昆虫学研究室, 福澤卓也・安岡竜太)  
 (長野県長野市, 浅野貴裕)

○岡山県におけるキタコンボウヒゲトハネカクシの採集記録

キタコンボウヒゲトハネカクシ (*Tetrabothus septentrionalis*) は1997年に北海道から新種記載されたコンボウヒゲトハネカクシ属の一種である (KISHIMOTO, 1997). その後、本州と四国からも本種が記録され (MARUYAMA and KISHIMOTO, 1999), 日本に広く分布することが明らかになったが、岡山県からの採集記録はなかった。

2005年に筆者が岡山県内においてFITで採集したコンボウヒゲトハネカクシ類が、本種であることが明らかになったので、ここに報告する。

同定と共にコンボウヒゲトハネカクシについて種々御教示いただいた岸本年郎博士に感謝の意を表す。



1 ex., 岡山県奈義町那岐山, 1-8. VI. 2005, 鈴木 茂採集.

1 ex., 岡山県高梁市備中町平川金平国有林, 17-25. VI. 2005, 鈴木 茂採集.

1 ex., 岡山県高梁市備中町平川金平国有林, 29. VI-5. VII. 2005, 鈴木 茂採集 (図1).

1 ex., 岡山県奈義町滝山, 29. VI-9. VII. 2005, 鈴木 茂採集.

4頭とも標高400~600メートルの落葉広葉樹林中に設置したFITで採集した。採集者はいずれも筆者である。奈義町産の2標本は岸本博士が、高梁

市産の2標本は鈴木が保管している。

引用文献

KISHIMOTO, T., 1997. The genus *Tetrabothus* (Coleoptera, Staphylinidae, Aleocharinae) from Japan, with description of a new species from Hokkaido. *Elytra, Tokyo*, 25(2): 445-450.  
MARUYAMA, M. & KISHIMOTO, T., 1999. A revision of the Japanese species of the genus *Tetrabothus* (Coleoptera, Staphylinidae, Aleocharinae). *Elytra, Tokyo*, 27(2): 503-517.

(岡山県岡山市, 鈴木 茂)

沖縄島におけるニセナガカッコウムシの記録

ニセナガカッコウムシ *Xenorthrius elongatus* MIYATAKE, 1985 は、トカラ列島と奄美大島から記録されている南方系のカッコウムシ (宮武, 1985) であるが、筆者は沖縄島産の標本を所有しているので初記録として報告したい。

2 exs., 17. IV. 2007 (羽化), 沖縄県沖縄島大國林道, 伊藤正雄採集.

2頭ともカミキリの食害していた材から羽化したもので、明るい褐色の個体である。



末筆ながら標本を提供して下さった糸久仁雄, 伊藤正雄の両氏に感謝する。

参考文献

宮武睦夫, 1985. カッコウムシ科, 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編著, 原色日本甲虫図鑑 (III): 146, 151-161, 保育社, 大阪.

(東京都大田区, 酒井 香)

○シオダマリセスジダルマガムシを屋久島で採集

シオダマリセスジダルマガムシ *Ochthebius danjo* NAKANE, 1990 (図1) は長崎県男女群島の中ノ島で採集された1♀に基づき記載された海岸性甲虫である(中根, 1990). 鹿児島県枕崎市で多数得られた標本に基づき記載された *O. yumiae* MATSUI et DELGADO, 1997 は本種のシノニムとされている(JÄCH, 1998). これまでに記録された産地は男女群島と枕崎市のみであったが, 2008年4月に屋久島で本種を採集したので報告する.

13頭, 屋久島町永田(海岸), 28-IV-2008, 筆者採集. 35頭+6幼虫, 屋久島町春田浜(海岸), 29-IV-2008, 筆者採集. 3頭, 屋久島町麦生(海岸), 29-IV-2008, 筆者採集.

同定は吉富ほか(2000)を参考にした. 各採集地点はいずれも岩礁の水たまり(図2)で, 基本的に雨水によって保たれているとみられる. 波打ち際より水平または垂直的に離れており, 海水の影響は荒天時など限定的であろう. このような水たまりにはボウフラが生息しており, 本種を見つける目安として有効である. また, 永田と麦生では, チャイロチビゲンゴロウやコマルガムシの一種も生息していた. なお, 林・藤原(2007)の調査でも2007年7月に海岸でチャイロチビゲンゴロウを採集しているが, 本種はまったく確認しておらず, 採集できる時期が限られているとみられる. 中根(1990)やMATSUI & DELGADO (1997)によれば, 成虫は2月, 4月, 5月, 11月の各月に採集されている. 今後, 秋から春にかけての時期に海岸で水たまりに注目し



図2 生息環境(永田)

て本種を探せば, 新たな産地の発見が期待できる. 最後に, 本種の生息環境についてご教示いただいた丸山宗利博士にお礼申上あげる.

引用文献

- 林 成多・藤原淳一, 2007. 屋久島で採集した水生甲虫. 甲虫ニュース, (159): 7-10.  
 JÄCH, M., 1998. Hydraenidae: II. The Taiwanese and Japanese species of *Ochthebius* Leach (Coleoptera). Water Beetles of China, II: 173-193.  
 MATSUI & DELGADO, 1997. A new species of the genus *Ochthebius* from Japan (Coleoptera, Hydraenidae). *ESAKIA*, (37): 71-76.  
 中根猛彦, 1990. 日本の雑甲虫覚え書 6. 北九州の昆蟲, 37 (2): 61-68, 1 pl.  
 吉富博之・松井英司・佐藤光一・疋田直之, 2000. 日本産セスジダルマガムシ属概説. 甲虫ニュース, (130): 5-11.  
 ((財)ホシザキグリーン財団, 林 成多)

○ムネモンマルハナノミの利尻島からの記録

ムネモンマルハナノミ *Elodes kojimai* NAKANE は, 日本からは北海道と本州北部から記録されている(YOSHITOMI, 1997:2005). 著者は今回, 芝田太一コレクション(現・樺原市昆虫館保管)の中に利尻島から採集された標本を見出したので以下に記録する.

1♀, 北海道利尻町利尻山, 9-VIII-1963, H., NOMURA 採集.

標本検視に当たりお世話になった安藤清氏と, 北海道大学博物館の大原昌宏氏にお礼申し上げる.

引用文献

- YOSHITOMI, H., 1997. A revision of the Japanese species of genera *Elodes* and *Sacodes* (Coleoptera, Scirtidae). *Elytra*, Tokyo, 25: 349-417.  
 ———, 2005. Systematic revision of the family scirtidae of Japan, with phylogeny, morphology and bionomics (Insecta: Coleoptera, Scirtoidea). *Jpn. J. Syst. Ent., Monographic Series*, (3): 1-212.  
 ((株)環境指標生物, 吉富博之)

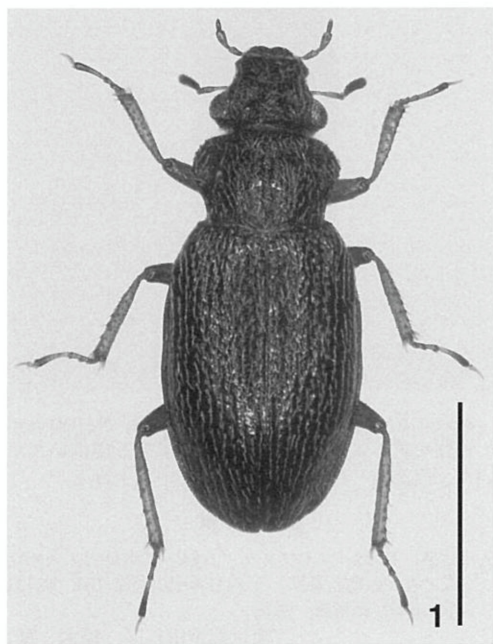


図1 屋久島で採集した個体

## ○対馬で採集されたアイヌコメツキダマシ

アイヌコメツキダマシ *Farsus ainu* FLEUTIAUX は、北海道、本州、四国、九州、屋久島、台湾に広く分布することが知られているが、対馬からの記録はないようである。筆者は、対馬で採集された本種を検査することができたので、ここに記録しておきたい。

1 ex., 長崎県対馬市上県町目保呂, 28. VII. 2007, 堀口 徹採集。

記録するにあたり、標本をご提供いただいた堀口徹氏に厚くお礼申し上げます。

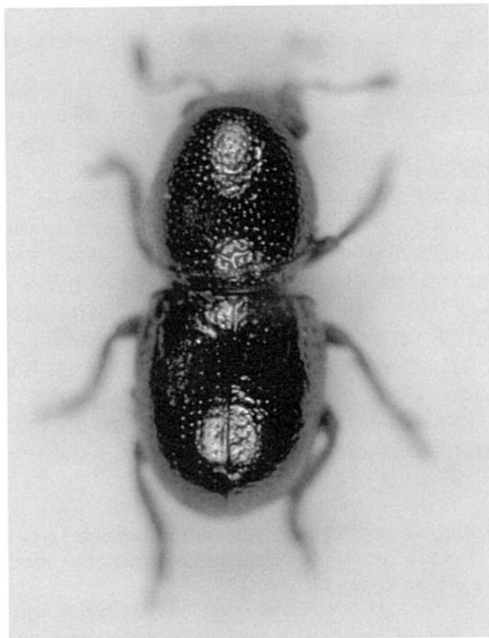
## 参考文献

久松定成, 1985. コメツキダマシ科. 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編著, 原色日本甲虫図鑑 (III): 42-51 (pls. 8-9). 保育社, 大阪。

(東京都世田谷区, 鈴木 互)

## ○宮古島で採集されたツヤチビヒョウタンヒゲナガゾウムシ

ツヤチビヒョウタンヒゲナガゾウムシ *Notioxenus nitidus* MORIMOTO, 1978 は、琉球列島に広く分布することが知られている種であるが、宮古島で採集された例はこれまでにないようである。筆者らは、宮古島で地面に設置した衝突板トラップで本種を採集することができたので、ここに記録しておきたい。



1 ex., 沖縄県宮古島市下地咲田川, 7-18. VIII. 2008, 上地泰廣採集; 1 ex., 沖縄県宮古島市砂山ビーチ, 7-18. VIII. 2008, 上地泰廣採集。

発表するにあたり、いろいろとご教示いただいた妹尾俊男博士に厚くお礼申し上げます。

## 参考文献

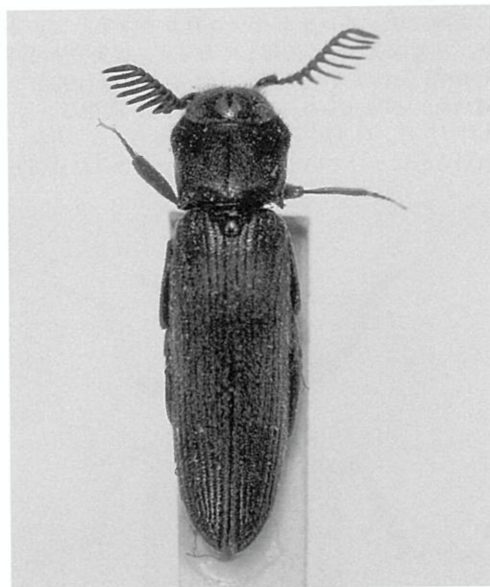
森本 桂, 1985. ヒゲナガゾウムシ科. 林匡夫・森本桂・木元新作編著, 原色日本甲虫図鑑 (IV): 226-249 (pls. 44-49). 保育社, 大阪。

森本 桂, 1989. ヒゲナガゾウムシ科. 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター・共同編集, 日本産昆虫総目録 I: 485-492. 九州大学農学部昆虫学研究室, 福岡。

(宮古島市平良, 上地泰廣)  
(東京都世田谷区, 鈴木 互)

## ○九州で採集されたシコクカクムネコメツキダマシ

シコクカクムネコメツキダマシ *Melasis shikokensis* HISAMATSU, 1985 は、四国の石鎚山および剣山で採集された個体(個体数未明記)に基づいて、保育社の原色日本甲虫図鑑の中で命名された種である。その後、本州の各地で採集された個体が記録されているが、これまでに九州からの記録はないようである。筆者らは、熊本県で採集された個体を検査することができたので、ここに記録しておく。



2♂♂, Kashiwagawa, 9. IX. 1973, S. NAOMI leg. 短報を書くにあたり、貴重な標本をご提供いただいた、直海俊一郎博士に厚くお礼申し上げます。

## 参考文献

久松定成, 1985. コメツキダマシ科. 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編著, 原色日本甲虫図鑑 (III): 42-51 (pls. 8-9). 保育社, 大阪。

(東京都世田谷区, 鈴木 互)  
(岡山県倉敷市, 渡辺昭彦)

## [会 告]

## タカネリクワガタの採集などに関する規制について

タカネリクワガタが2008年3月26日にいわゆる「種の保存法」の緊急指定種に指定された経緯については、本誌前号に会告として述べたとおりである。また、この指定によって本種の捕獲（採集）、殺傷、譲渡、販売等については、原則として禁止あるいは制限されるなどの規制を受けることとなった。したがって、許可を得ていないにもかかわらず、故意に本種を採集あるいは譲渡・販売した場合には、法によって処罰されるので注意していただきたい。

一方、生息地（既知・未知を問わず）で昆虫調査を行うに当たり、本種と認識しないで採集してしまうなどの事態も予測される。このような「故意でなく採集してしまった場合」を含め、いくつかの現実的にありえるケースについて法律上はどのような扱いとなるのか、環境省から回答をいただいたのでここに会告として通知しておく。

問1 四国山地以外で発見したときはどうなるか？

（答） タカネリクワガタは全国どこであっても生きている個体の捕獲等の行為が禁止されていますので、採集はできません。

問2 四国山地も含め、知らないで採集したらどうなるのか？ また採集してしまった標本の扱いはどのようにすればよいのか。

（答） 問1の答と同じです。国内希少種（緊急指定種）の生きている個体の捕獲は法律で禁止されています。個体を捕獲した場合は種の保存法違反となります。ただし、刑法第38条は「罪を犯す意思がない行為は、罰しない。」旨規定しており、捕獲が禁止されている国内希少種であることを知らなかったことについて合理的な理由がある場合には、罰則は課されないことになります。また、知らずに採取してしまった個体（標本なども含む。）の取扱については、環境省自然環境局野生生物課まで、必ずご相談ください。

参考：刑法第三十八条（故意）

- 1 罪を犯す意思がない行為は、罰しない。ただし、法律に特別の規定がある場合は、この限りでない。
- 2 重い罪に当たるべき行為をしたのに、行為の時にその重い罪に当たることとなる事実を知らなかった者は、その重い罪によって処断することはできない。
- 3 法律を知らなかったとしても、そのことによって、罪を犯す意思がなかったとすることはできない。ただし、情状により、その刑を減軽することができる。

問3 すでに死亡していた個体は持ち帰ってもいいのか？

（答） 死んでいるものに関しては、捕獲等の規制対象ではありません。

問4 緊急指定前に採集した標本についての規制はあるか？

（答） 指定前に採取された標本を、そのまま継続的に所有していただくことについての規制はありません。但し、所有権・占有権を移動させる場合には、譲渡し等の手続が必要となります。

問5 緊急指定前に採集し、現在も（将来も）飼育・増殖予定の個体はどのような規制を受けるのか？

（答） 指定前に捕獲された個体を継続的に飼育・増殖していただくことについての規制はありません。但し、所有権・占有権を移動させる場合には、問4の答と同様に譲渡し等の手続が必要となります。

問6 タカネリクワガタとは知らないで売買したらどうなるのか？

（答） 譲渡し等禁止の違反となります。故意でない行為については、問2と同じことがいえます。

問7 材採集をしたときに、タカネリクワガタが出てきてしまったらどうなるのか？

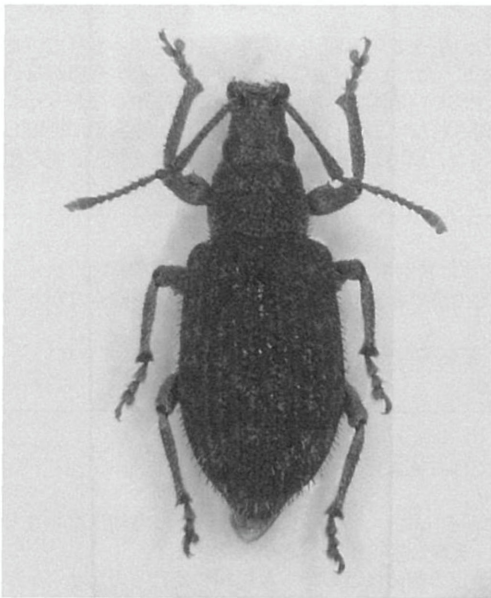
（答） 問2の答と同様です。

以上のとおりである。このことからわかるように、許可なく故意に行う行為は処罰の対象となるが、違法行為であっても故意でなく犯してしまった場合は、必ずしも処罰の対象とはならない（ケース・バイ・ケース）。会員にあっては、このことをよく理解してくださるとともに、故意あるいは悪意による採集または譲渡・販売行為を絶対に犯さないようお願いしたい。

（文責：自然保護委員長 高桑正敏）

## ○茨城県と岡山県におけるハリゲカシワクチプトゾウムシの採集例

ハリゲカシワクチプトゾウムシ *Nothomyloceus illitus* (REITTER, 1915) は、清国におけるドイツ帝国の租借地であった膠州湾(Kiautschou)から *Mylocerus* 属の1種として記載された種であり、MORIMOTO *et al.* (2006) による Cyphicerini 族の属分類の再検討に伴ってその所属が変更された。本種は、北東アジア(ロシア沿海州、中国東北部、韓国、日本)に分布し、大陸部では平地から中山間部の落葉広葉樹林で普通に見られるが、日本ではかなり稀で、長野県および埼玉県、香川県においてコナラとミズナラから得られた数例の記録が知られているに過ぎない(MORIMOTO *et al.*, 2006; 久米, 2007)。最近、筆者らは茨城・岡山各県で採集された本種の標本を検査する機会に恵まれたので、若干の生態情報とともに、追加記録としてここに報告する。



5♀♀, 茨城県土浦市穴塚, 5.V.2008, 吉武採集・保管; 1♀(写真), 岡山県新見市豊永佐伏, 1.V.2004, 福田元信採集, 瀬島保管。

岡山県産の標本は食樹不明だが、ゼフィルス類の産地として有名な阿哲台地の、主としてクヌギやナラガシワによって構成される雑木林で得られたものである。茨城県産の標本は、北関東における典型的な里山環境において、林縁部のアベマキ(ブナ科)から得られたものであり、採集した個体の他にも、新葉上で摂食中の成虫を多数目撃した。また、現地には、アベマキ以外にもクヌギやコナラ、クリ、スダジイ、アラカン、シラカシ等のブナ科植物が生育しているため、同時にビーティング・スウィーピング法による調査を行ったが、他の樹種からはカシワ

クチプトゾウムシやケバクチプトゾウムシ等が得られただけで、本種を採集することは全くできなかった。地域によって本種成虫の食樹選好性が異なる可能性があるため、今後調査が必要である。

末筆ながら、貴重な標本を恵与下さった岡山県津山市の福田元信氏に厚く御礼申し上げます。

## 引用文献

- 久米加寿徳, 2007. 瀬戸内海の島嶼で採集されたゾウムシ, へりぐろ, 28: 41-42.  
 MORIMOTO, K., H. KOJIMA, and S. MIYAKAWA, 2006. The Insects of Japan. III. Curculionoidea: General Introduction and Curculionidae: Entiminae (Part 1). Phyllobiini, Polydrusini and Cyphicerini (Coleoptera). iv+406 pp. Touka Shobo, Fukuoka.  
 REITTER, E., 1915. Neue Arten aus der Russelkäfer-Tribus: Ptochini aus China und der Mongolei. *Wien. ent. Ztg.*, 34: 117-124.

(農業環境技術研究所, 吉武 啓)  
(愛媛大学, 瀬島翔馬)

## ◇学会の発行物・バックナンバー販売委託先◇

昆虫文献 六本脚

TEL/FAX: 03-5625-6484

E-mail: roppon-ashi@kawamo.co.jp

URL: <http://kawamo.co.jp/roppon-ashi/>

## 甲虫ニュース 第163号

発行日 2008年9月30日

次号は2008年12月下旬発行予定

発行者 新里達也

編集者 鈴木 互(編集長), 長谷川道明, 川島逸郎,  
奥島雄一, 吉富博之

発行所 日本鞘翅学会

〒169-0073 東京都新宿区百人町 3-23-1

国立科学博物館昆虫第2研究室

電話 03-3364-2311

原稿送付先(甲虫ニュース) 鈴木 互

〒156-0053 東京都世田谷区桜 3-14-13

電子メール: elater@b08.itscom.net

印刷所 (株)国際文献印刷社

年会費 2008年度 7,000円(一般会員)

郵便振替口座番号 00180-3-401793

ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/jsc2/index.html>

## 昆虫学研究器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめて出来たステンレス製有頭昆虫針00, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6号, 有頭ダブル針も出来ました。その他, 採集, 製作器具一切豊富に取り揃えております。

〒142-0051 東京都品川区平塚2丁目5番8号

郵便振替 00130-4-21129

電話 (03) 5858-6401(ムシは一番)

FAX (03) 3784-6464

(カタログ贈呈) (株)志賀昆虫普及社